

6 - 8 中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動 (July, 1983 -December, 1983)

Seismicity in the Eastern Chugoku, Northern Kinki and Hokuriku Districts,
Southwest Japan (July, 1983 - December, 1983)

京都大学防災研究所 鳥取微小地震観測所
北陸微小地震観測所
京都大学理学部 阿武山地震観測所
Tottori Microearthquake Observatory and Hokuriku Microearthquake
Observatory, Disaster Prevention Research Institute
Abuyama Seismological Observatory, Faculty of Science
Kyoto University

第1図に鳥取観測網の結果を示す。今回の半年間で特筆すべきことは、10月31日に鳥取県中部にM6.2の地震が発生したことである。この地震に関しては、既に本会報第31巻に詳しい報告¹⁾がある。その他でやゝ目立つ地震活動は、米子南方にやゝ大きい地震がかたまつて発生したこと、丹後半島の地震活動が比較的活発なことなどである。後者については、阿武山観測網によって次に述べられている。

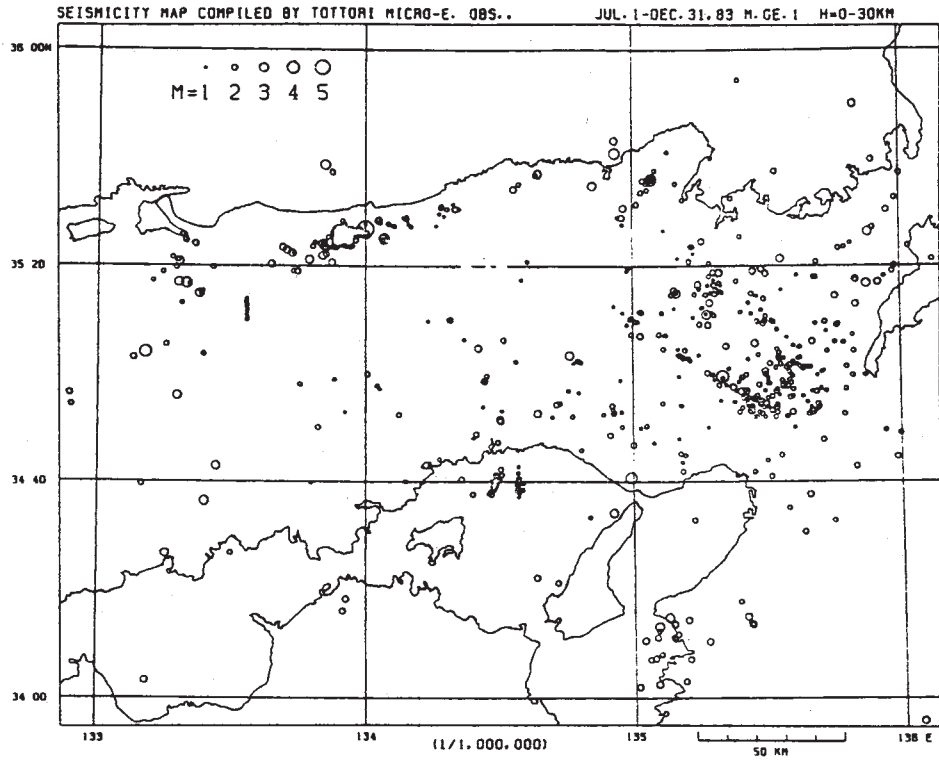
第2図に阿武山観測網の結果を示す。今回目立つ活動としては、11月16日05時13分、亀岡附近の地震がある。M3.8、多数の前震、余震を伴った。この地震の詳細は本号に報告²⁾がある。8月5日06時48分のもはM4(気象庁)、丹南と妙見の中間で現地で震度2であった。12月29日13時10分、北丹後地震(1927)の震央附近にM4.2の地震があった。

月別では11月が他の月に比べ発生数が約2倍多かつた。これは、亀岡附近、琵琶湖西岸、伊賀上野の各群発地震のためである。

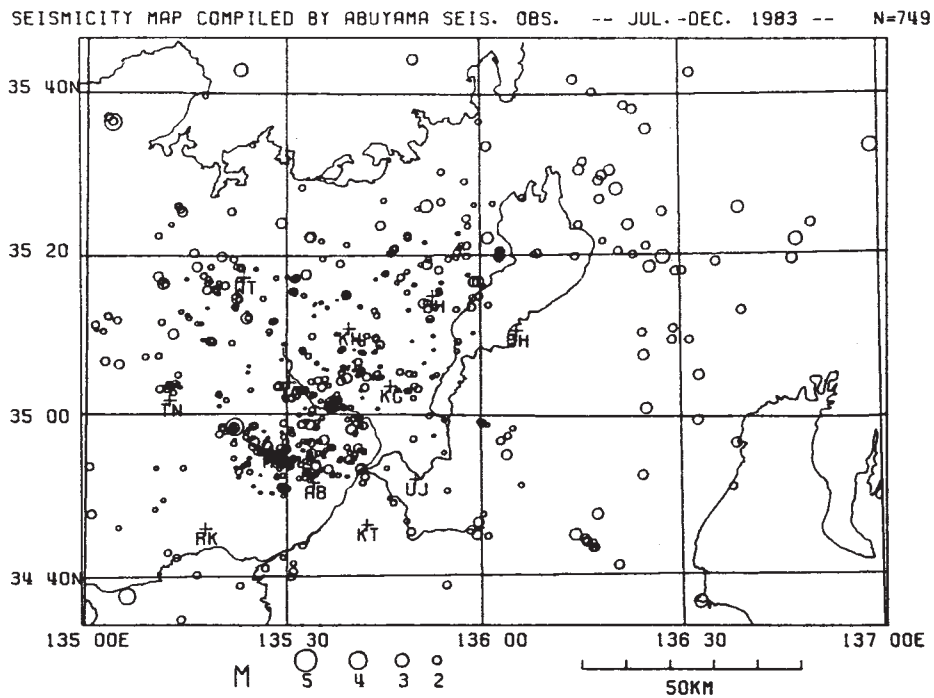
第3図に北陸観測網の結果を示す。今回の活動も従来の活動域にまんべんなく地震が起こっているが、特に目立つ活動はない。北陸の観測でも、上記の丹後半島の地震が比較的目立つものである。北陸(HKJ)の西南西8kmに地震があり、北陸を中心とする空白域が少し狭まったようにも見えるが、精度等の検討が必要である。

参 考 文 献

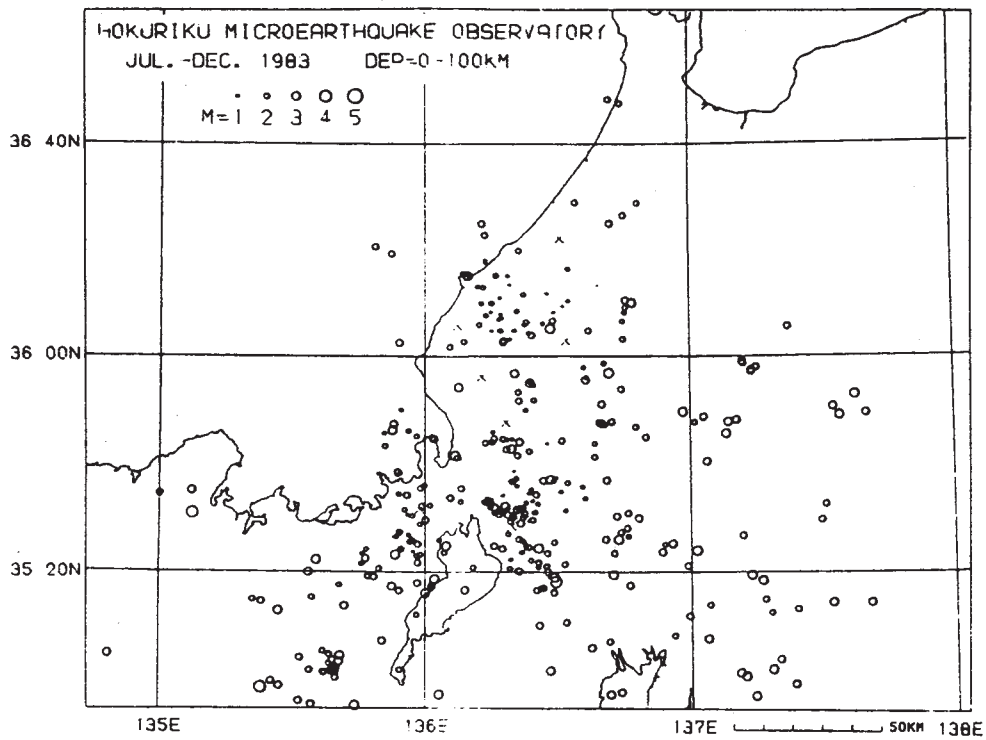
- 1) 京都大学防災研究所, 鳥取微小地震観測所, 微小地震研究部門, 鳥取大学教養部地学教室 : 1983年10月31日鳥取県中部の地震(M6.2)について, 連絡会報, **31**(1984), 390 - 398.
- 2) 京都大学理学部, 防災研究所 : 京都付近の局発地震(1983年11月16日, M=3.8)について, 連絡会報, **32**(1984) 284 - 294.



第1図 鳥取微小地震観測所による震央分布図（1983年7月～1983年12月）
 Fig. 1 Seismicity map by the Tottori Microearthquake Observatory (July, 1983 - December, 1983).



第2図 阿武山地震観測所による震央分布図（1983年7月～1983年12月）
 Fig. 2 Seismicity map by the Abuyama Seismological Observatory (July, 1983 - December, 1983).



第3図 北陸微小地震観測所による震央分布図(1983年7月~1983年12月)
 Fig. 3 Seismicity map by the Hokuriku Microearthquake Observatory (July, 1983 -December, 1983).